

哲学カフェ@しぞ〜か
第3回 「子育ては誰の責任か」
実施報告書

2013.12.24 松尾和満作成

1. 日時：2013年12月21日（土） 14:00～16:00
2. 会場：B-nest 静岡市産学交流センター 大会議室（葵区御幸町3-21 ペガサート6階）
3. 参加者数：38名（一般参加者29名，世話人9名）

4. 概要

今回は「子育ては誰の責任か」をテーマに開催した。はじめに、世話人共同代表の堂園俊彦（静岡大学農学研究科）より哲学カフェ@しぞ〜かの創設趣意と討議の進め方についての説明がなされた。次に、世話人の佐野昌代（主婦）よりテーマについての解題がなされた。その後、参加者は2つのグループに分かれ、適宜コーヒーなどの飲み物を楽しみながら、それぞれテーマをめぐっての討議に参加した。なお、グループごとのファシリテーターは松尾和満（世話人，静岡大学大学院生）と堂園が、グラファー（ホワイトボードへの記録）は國弘彩と村山友梨が務めた。

5. 討議で交わされた意見（一部を紹介）

- ・ 母親が出産後に半年ほど実家に帰って子育てをするケースが多くある。生まれたばかりの赤ちゃんが人間になっていく大事な時期を父親の存在なしに育てることになる。親元で甘えられる状況で、娘のまま母になってしまう。
- ・ 親元に帰ることが問題なのではなく、結婚するまでに自立できていないことが問題ではないか。
- ・ 子育ては、「親育て」である。
- ・ 幼児期だけが子育てではない。
- ・ 最近の母親たちは先生に子どもを預けると、自分の時間を楽しんでしまい、子どもの行動に無関心になる。
- ・ 子育て以外の周りのものが多い。シンプルに子どもと向き合いたいし、向き合う環境がほしい。
- ・ 仕事も子どもと向き合わない理由になっている。
- ・ 仕事をしながら、「背中を見せる」という育て方もあるのではないか。
- ・ 高度成長以前の日本の農村では、子育てに十分な時間を割いたわけではなかった。大家族やコミュニティの中で育てていた。現在は子育てに関わる人が限られている。
- ・ 社宅の同じ年代の母親たちで、共同で子育てをした。それぞれのタイミングでいろんな力が必要。コミットメントできるような社会が必要。
- ・ デンマークで出産したが、同国では男子トイレにもオムツを替えるスペースがあり、男性が子どもを会社に連れて行っても嫌がられない雰囲気があった。親はもちろん大事だが、社会も子育てをサポートするような仕組みが必要だ。
- ・ 「背中を見ろ」と言って逃げている親もいる。仕事で成果を上げる方が楽だから。
- ・ 問題が起きると子育てした人の責任探しをする風潮がある。責任を親に押し付けや

すい。しかし、責任追及をすることと子どもに応答することとは、分けて議論したほうがよい。

- 子育ては辛いこともあるが、楽しくやりたい。どのようにしたら楽しくなるのか、善意ではなく、制度を作らなければならない。
- 手をかけすぎることが良いことではない。
- おせっかいオバサン、おせっかいオジサンが必要。
- 子育てはともすると「お前の責任」というふうになる。「次の世代をどう育てるか」という視点が必要。
- 不登校のときに教師に殴られたことで、自分のことを考えてくれていると感じた。
- 体罰を肯定するのではなく、真剣に向かい合ってくれたことが良かったのだ。暴力と教育を分けて考えなければならない。
- 不登校の子どもが臨床心理士との対話のなかで「僕は僕でよかったんだね」と自己肯定をすることができた、という話を読んだ。子どもをありのままに受け入れることが大切ではないか。
- 「あなたはあなたでよい」というふうに子どもを肯定するのは、なかなか難しい。
- スウェーデンでは育休が 380 日取れるし、休んだ人の代わりに務める人がおり、その人の人件費の半分は税金である。総論賛成だが個人に降りかかると反対、ということに陥らない、企業も親もインセンティブを持てる制度が必要。
- DV や虐待は個人の問題ではない。正論の部分で職業倫理に落とし込んでいく必要がある。職場の中から取り組んで、地域につなげていくことをしている。
- 母親が発言しにくい社会がある。世論を形成できるように発信することが必要。
- 子どもの権利条約が批准されて 20 年経つが、日本では「子ども観」がまだまだ低い。学ぶ場がない。メディアリテラシーが必要。
- 一昔前は、子どもを産んでいなくても子どもに注意ができた。価値観が破綻した？
- 価値観が破綻したのではなく、多様化したのではないか。
- 責任を分散していくことが必要ではないか。
- スクールカウンセラーのような中間に立つ存在が必要。

6. 会場の様子 (写真)



写真1 カフェの飲み物



写真2 会場の全景



写真3 グループ1の討議



写真4 グループ2の討議



写真5 グループ1のグラフィック

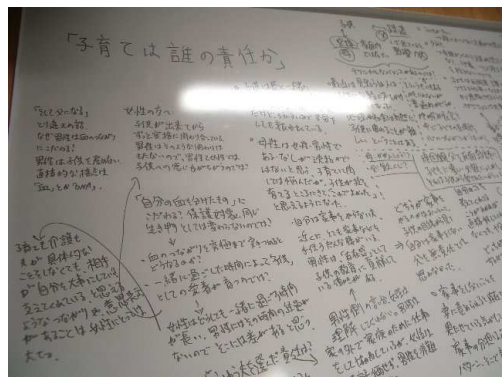


写真6 グループ2のグラフィック